

平成30年度 事業計画書

社会福祉法人天宗社会福祉事業会
理事長 土井 加津人

平成30年度における当法人・各施設の事業計画概要は次のとおりです。

1. 全体概要

初代理事長土井鶴之助氏が法人を設立して58年が経過しました。保育所不足時代に長吉の地に定員60名の保育所を開園し、現在は保育所6カ所（内1カ所は大阪市委託保育所）と老人デイサービスセンター2カ所の経営を行っている。

27年度より新制度が施行され、新型保育所（特定教育・保育施設）として運営してきたが、少子化もさらに進行し、園児数も減少傾向にあるので、今後の動向を考慮して、天宗長吉園、天宗清見台園で31年度認定こども園の移行をめざす。平野・東住吉区では待機児童も無く、園児入所の決定も区役所がポイント点数により決定するので、園児数の確定も遅くなり保育士数の確定も遅れ、保育士の不足や過剰が出来る。平成29年度の法人改革による、新理事・評議員の決定。定款変更手続等各種変更が終わり新体制による事業が順調に推移した。国においても保育所待機児童や保育士不足の問題が取り上げられ、保育士待遇向上のため、一定年数の経験者に特別処遇改善費Ⅱ（キャリアアップ費用）として、給料UPが行われた。しかし、これも人数制限があるので、全保育士のUPにはならない。保育士の定着を期するため法人独自でも給料のUPや新規手当の創設を考えざるを得ない状況である。しかし永年地元の保育所として運営してきたノウハウを生かし、子どもの最善の利益を保証し、将来国家を支える有用な人材となるように、職員一同一丸となり、さらに保育に専念する所存であります。

このように今後も法人・施設運営の厳しさが増す傾向にあるが、各施設独自に工夫し、資金面においても余裕が出来るよう努力していきたい。又、保育専門学校建物の未使用部分の有効活用を来年度から実施していきたい。

2. 施設概要

〔保育所運営概要〕

- ① 新型保育所として、認可定員・利用定員内(年齢別)の園児数が最大数と決められ、各園とも認可定員・利用定員の変更を行ったが、園次数の減少により今年度も定員変更を行う。又、保育所運営規程と保護者説明の保育所重要事項説明書の作成も、毎年、多少の変更が生じている。保育園児数が全体で昨年より29名減少した。そのため各園利用定員に余裕があるため途中入園を積極的に受け入れていくが保育士の人数により、困難な場合が出てくる。家庭で保育されている子どもが親子一緒に来園し楽しく過ごす子育て支援も好評であるので今年度も続けて行く。建替え完成した天宗瓜破東園を除く各園も設立より年数が経過し、建物維持のため園舎の耐震化、補修工事が必要となっているため、各園の経営努力により自己資金の積み上げを期待する。
- ② キャリアアップの予算もついているので、各園、保育士の研修機会を増やし、相互に保育内容の向上に努めるとともに、各施設の地域性も重視し、各園独自のアイデアによる保育を実施し、地域に密着した保育に取り組む。
- ③ 各園共保育の向上を目指し、外部講師による特別保育指導を保育士も学びながら充実した保育の指導が出来るように引き続き実施する。
- ④ 「食育」の観点から給食材料の安全性、給食献立も工夫し、食物アレルギーの園児にも対応したものとなっている。
- ⑤ 地域の子育て支援や小学校との交流にも積極的に取り組む。
- ⑥ 保育園児の安全を図るため、門扉のオートロック化を図り不審者の進入を防ぐとともに、遊具の安全点検を随時実施し、園内外での子どもの安全教育を強力に図る。夜間は警備会社の機械警備を実施し施設・設備の安全を図る。
- ⑦ 昨年度より各園、ICT化〔業務省力化〕の設備を整備し、園児の登・降園時間のチェック、職員の出・退勤管理に利用している。今後、保育文書の作成等に活用し、保育士の業務省力化に利用する。

○ 天宗瓜破園

瓜破園の南に位置する大阪市営住宅の取毀の後、更地となったままで、利用されていない。今年度は園児数が39名減少した。今後もこの傾向が続く可能性が予想されるため、認可定員を342名から264名に78名減少する。

保育事業では、乳児保育・特別支援（障がい児）保育・延長保育等を引き続き行う。又てんそう苑や平野地域デイの老人と園児の交流会を実施する。子育て支援として、園独自で毎月1回子育て支援・園庭開放を実施している。又地域中学校の保育体験、保育士を目指す高校生の保育体験や大学等の実習を受け入れる。

毎年、各種の児童絵画展に出品し、好評を得ているので、引き続き出品し、職員・園児の励みとする。

火災避難訓練と共に地震や津波の防災訓練又不審者対応の訓練も行い安全性を強化する。

○ 天宗瓜破東園

新園舎の完成で、明るくなった園舎で園児たちは学んでいますが、当地、平野区は少子化の煽りで、園児の確保が非常に難しく、今後の保育事業運営に影響が見られる中でも地域の人々や未就園児の保護者に視覚から捉えられる園環境が必要であると考え、園庭の整備に力をそそぐことにいたしました。

まず、園庭周りのフェンスには、植栽と花壇、菜園には畑を設けて季節の花々や野菜を育て、地域周囲の人々にも季節を感じて頂ける様に、明るく楽しい雰囲気や環境作りを考えています。保育事業では、乳児保育・延長、時間外保育、特別支援（障がい児）保育を行う。

子育て支援の一環として育児相談、未就園児の保育体験、園庭開放、地域行事への参加、小学校児童との交流、小規模保育所との連携、看護師や栄養士による健康・栄養相談窓口を設け実施する。

また、災害時には、園舎を避難場所として開放し、AEDの設置や人命救助の一助となるよう職員全員が、消防署による救命救急の講習を毎年一回受講し、技術を習得する。

○ 天宗長吉園

保育事業として、乳児保育・延長保育・特別支援（障がい児）保育を実施し対象者のニーズに応えていく。子育て支援では、園庭開放〔園庭での遊具新幹線の乗車・夏期プール〕や保育園体験、育児相談を実施する。地域中学校の職場体験、大学生の保育実習を受け入れる。又30年以上の経験をもつ知能教育（SIあそび）の一層の充実をはかる。

ホームページでは、園生活の様子を随時ブログで更新する。

防犯カメラ・門扉のオートロック化・常駐警備員を配置して、園児の安全を図る。

幼保連携型認定こども園への移行を目指して、保育内容の一層の充実を図り、職員全員のキャリアアップを重点的に考えていく。

○ 天宗東住吉園

地域との繋がりを大切にした保育として運動会等の行事に近隣のお年寄りの施設入所者を招待したり、定期的に施設を訪問しかかわりを大切にしながら、園児に思いやりの心をはぐくんでいく。

さらに地域の小学校・中学校と連携をはかりながら授業風景、行事見学、生徒との交流を通して就学への期待や成長する事への喜びを持てるようにする。

乳児保育・特別支援（障がい児）保育・延長保育を実施し対象者のニーズに応えていくと共に東住吉地域子育て支援センター園として日々保育室を提供し未就園児の親子を受け入れ遊ばせたり育児相談や園庭開放等を行い支援していく。

○ 天宗清見台園

乳児産休明け保育・一時保育（自主事業）・特別支援（障がい児）保育・延長保育（午前7時～午後8時）等を行う。縦割り保育の中で、協調性や思いやりの心を育む。又、特別保育として、和太鼓、茶道教室等を実施する。

地域のお年寄りや未就園児童を園行事に積極的に招き、在園児との交流を深めると共に、緊急入所児童の受け入れや育児相談を行い、子育て、子育てへの支援に努める。

河内長野市保・幼・小連絡会に参画し、交流会や研修会を通じて連携を深める。

地域の小学校との連携を図りながら、学校見学会、生徒との交流を通じて就学への援助を図る。
地域の中学校からの職場体験、大学等からの保育実習の受け入れを行う。

○ 大阪市立矢田第三保育所

大阪市より運営委託を受けて、7年目を迎えた。乳児保育・延長保育・特別支援（障がい児）保育子育て相談、地域交流の一貫として老人福祉施設への年2回の定期的な訪問を行う。

当保育所の特徴的な保育内容として、4月から5月にかけての家庭訪問。月一度幼児クラスの園児への絵本の貸し出しや、“お楽しみデー”と題し、全園児が集う催しを行っている。

今年度もICT化による登降所の時間管理、安全管理等を徹底して行う。

園児や保護者に寄り添いながら、ひとりひとりを大切に、安定した保育の提供と子育て支援を行っていく。

[老人通所施設運営概要]

- ① 老人地域在宅ステーションが単独施設運営のため、融通性が無く、余裕のある経営とはなっていないが、種々のサービスメニューを検討し、収入の安定を図りたい。
- ② 同種の施設が株式会社やNPO法人等で増加しているが、老人人口も増加しているため、サービスの向上で利用者増に結び付けたい。

○ 瓜破西地域在宅サービスステーション「てんそう苑」

開設して20年が過ぎた。福祉医療機構からの借入金も昨年度で償還終了し、今年度からは、少額ではあるが積立が可能となってくる。

質の評価を実施し業務改善を行い効率を上げると共に利用者の増加を図りたい。訪問介護については、研修を通じて質の向上を図ると共にキャリアアップ出来るようにしていく。日常生活支援総合事業の移行もスムーズに実施してきた。又障がい事業・訪問介護共に人員不足が深刻化しており、資格取得補助も含めた採用を行い、人員の確保及び資質向上に努めていく。

デイサービスについては医療依存度の高い方や、中重度利用者及び認知症の利用者に対するサービスの質の向上を図っていく。又引き続き運動機能訓練を加算算定し、自立支援に向けた取り組みを実施していく。さらに日常生活機能の向上をめざして、プログラムを充実していく。祝日のサービスを引き続き実施する。又デイサービスの効果を周知するためパンフレットを作成しケアマネジャーに広く伝えていくことで新規利用者の増加を図りたい。その他、活動や運動に重点を置き野外でのレクリエーションや食事や買物等の日常生活活動を地域に出で行うことで、利用者の刺激となり、より一層元気に自宅で過ごせるよう支援行っていく。

ランチ（介護支援センター）では地域包括支援センターと連携し、見守り訪問を積極的に行っていき実態把握及び総合相談につなげていく。又地域連合加入地域へのアンケートを実施し地域分析を行い、課題把握につとめていく。

年に一回秋に「てんそう生き生きフェア」を開催し、地域にセンターの機能を広く広報し、より身近な相談拠点となれるよう努めていく。又、介護教室や制度について知ってもらう機会作りとしていく。引き続き家族介護負担軽減（レスパイト）を目的に相談機能の充実を図り個別性に応じたデイサービスの受け入れや訪問介護の夜間時間外訪問など実施していく。

○ 平野在宅サービスステーション

開設して14年となる。この施設は平野中学校の敷地内に存在するため、高齢者と中学生との交流の実施を特徴とする。又閉じこもり予防や身体機能の向上を図り在宅生活に必要な支援を行う。

今年度より常勤の理学療法士を採用することで、利用者の身体機能の回復や生活機能向上及びその人らしい生活の実現を目指す。事業所においては適正なサービス提供が出来るように人材確保に努め、研修会等定期的に開催し、質の向上を図りより良いサービス提供を実施することで、利用者増員に結び付けたい。訪問介護は必要に応じ、日・祝日の提供を実施する。又、多様なニーズに対応出来るようヘルパーの研修会等を定期的に開催し質の向上を図る。

総合相談窓口（ランチ）では地域の相談窓口として各種相談に応じる。又、地域ネットワークの構築、権利擁護、高齢者虐待等の相談に応じ、適宜、関係機関と連携する。

3、年間基本保育日数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
保育日数	24	24	26	25	26	23	26	24	24	23	23	25	293
日、祝、休業	6	7	4	6	5	7	5	6	7	8	5	6	72
合計	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365

園により臨時休園をとる場合があります。

4、保育児童並びに職員数（平成30年4月1日予定）

保育所名		瓜破園-39		瓜破東園+5		長吉園+14		東住吉園-1		清見台園-14		矢田第3+6	
		標準	短時間	標準	短時間	標準	短時間	標準	短時間	標準	短時間	標準	短時間
児童 数 内 訳	差数 -29	162	57	162	46	195	81	100	56	45	5	75	26
	0歳児 -12	3	3	5	3	10	2	3	6	2	0	6	0
	1歳児 +14	27	8	31	5	31	5	10	12	10	2	11	2
	2歳児 +13	30	10	24	8	30	18	21	10	6	1	16	2
	3歳児 -7	35	8	31	10	40	16	22	8	15	2	10	7
	4歳児 -17	35	12	30	14	40	20	18	10	5	0	19	6
	5歳児 -20	32	16	41	6	44	20	26	10	7	0	13	9
特別支援児保育		2	+1	1		0名	+1	4		0名	+3	4	
東住吉園 清見台園 合計 園児数 -29	子育て支援職員 常勤1名 パート2名 一時保育数 延30名（自主事業） 0歳児 1歳児 2歳児 3歳児 4歳児 5歳児 合計 43 154 176 204 209 224 1010 15 26 30 14 10 9 104 クラス担当者 78 その他職員 182 （パート含む） +8												

瓜破西地域在宅サービスステーション てんそう苑

デイサービスセンター 定員30名 職員 常勤 3名 パート 15名

訪問介護 年間5000回 職員 常勤 2名 登録ヘルパー 8名

居宅介護年間600回（職員は訪問介護と兼務） 職員 常勤 2名 登録ヘルパー 4名

居宅介護支援（ケアマネージャー） 職員 常勤 3名

在宅介護支援センター ブランチ 職員 常勤 1名（社会福祉士）（専任）

平野地域在宅サービスステーション

デイサービスセンター 定員25名 職員 常勤 3名 パート 9名

訪問介護 年間2000回 職員 常勤 1名 登録ヘルパー 6名

居宅介護支援 年間300回 職員 常勤 1名（介護支援専門員）兼任 1名

在宅介護支援センター ブランチ 職員 常勤 1名（社会福祉士）（専任）兼任 1名